

麻谷寺 利用案内

利用時間 年中無休 開放

利用料金 大人3,000ウォン / 青少年1,500ウォン / 高齢者 無料

アクセス 公州バスターミナルから770番バス 乗車 麻谷寺 下車 (バス終点)
所要時間40分 便数 50分~1時間20分間隔

お問い合わせ 麻谷寺宗務所 +82-41-841-6220~3

テンプルステイ

正規プログラムの紹介

礼仏 釈迦牟尼の人生を反芻しながら、私たちが仏様の慈悲の微笑みと智の澄んだまなざしに近づきたいという随行を願います。

座禅 気持ちを落ち着かせ真実の自分と向き合う時間を持ちます。

食器供養 感謝の気持ちをもって、この食べ物が私の目の前に来るまでの自然と人々の苦勞を感じながら米一粒も残してはいけません。また食器供養は、お坊さんたちの修行の一つの方法です。

運力 労働の貴重な体験を行い、一滴の汗がどれだけ大切なのかを感じてみる時間です。

松風の道ウォーキング 麻谷寺の松風の道に沿って1人で静かに歩きます。森の香り、風の音に触れながら安らかな気持ちになります。

お坊さんとの対話 お坊さんと茶を一杯やりながら私の話の中にお坊さんを招待して教頭をします。

108の念珠通し 1つ1つ念珠を通しながら108拝します。自身の過ちをまっすぐに見つめ自ら懺悔し、健康な人生、成熟した人格に再び生まれ変わるとい願いを立てます。

テンプルステイ (山寺のゆとり) 参加のご案内

麻谷寺テンプルステイホームページ magoksa.templestay.com

電話での相談及び予約 +82-41-841-6226

テンプルステイの3つのコース	休息型	山寺で休みを取り、自ら精進して過ごすこと
	体験型	一定のプログラムの中で団体研修を行うこと
	当日体験(2時間程度)	査察案内、短珠つくり、お坊さんと茶菓



麻谷寺 土曜ステージ

事業期間 7~8月 毎週土曜日 19:30, 8回

場所 麻谷寺観光地 野外ステージ

管理者 麻谷寺上院連合会

白凡 キム・グ先生の足跡



- 1946年麻谷寺(マゴクサ)訪問時

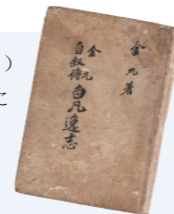
白凡堂

白凡堂は、大韓民国の臨時政府首席で独立運動の指導者である、白凡 金九(キム・グ1876~1949) 先生が 1896年の明成皇后殺害に対する怒りから黄海道安岳郡の鵝河浦で日本軍の将校を殺害し仁川刑務所で監獄暮らしをしている最中、脱獄し麻谷寺に隠居するとき、圓宗(ウォンジョン)という法名でしばらく出家し修道していた場所である。

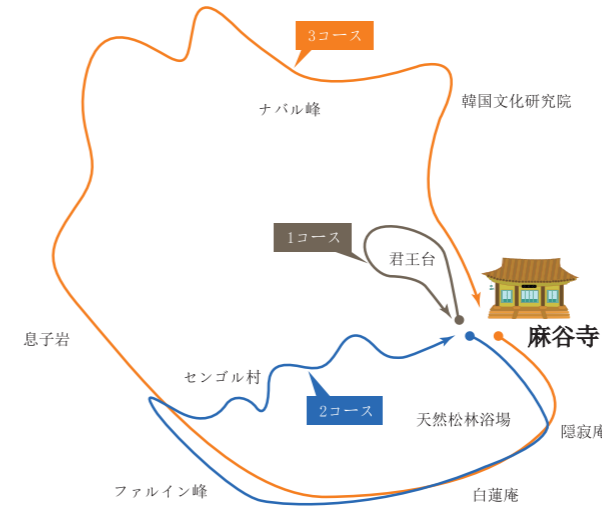
白凡 金九先生は、1898年に麻谷寺を離れた後、約50年ぶりに帰って大 光宝殿(デクアンボジョン)の柱にかかっている柱聯の却來観世間 猶如夢中事(帰ってきて世界をみるとまるで夢の中の出来事のようなのだ)という楞嚴經に出てくる文句をみて感慨無量し、その時のことを考えながら一本のイブキを植えた。今も白凡堂の隣に青々と育っている。

私は、この夫と共に麻谷寺をめざし鶏龍山(ケリョンサン)を離れた。(中略) 麻谷寺の前の峠に上った時には、すでに夕暮れだった。山一杯に紅葉が色づき(中略) 感慨を持たせた。麻谷寺は、夕もやにふけており、風塵で汚れた私たちの目を避けているようだった。ゴーン、ゴーン。鐘が鳴っている。夕べの礼拝を知らせる音だ。全ての煩惱を捨てるといっているように聞こえた。

- 「白凡逸志」から-



环麻谷寺游路线介绍



1コース: 白凡瞑想の道 (散歩コース3km、所要時間 50分)

麻谷寺(白凡記念館、記念植樹) → 金九先生剃髪の後(再現) → 洞窟岩 → 君王台(体験場) → 麻谷寺

2コース: 白凡の道 (トラッキングコース5km、所要時間1時間30分)

麻谷寺 → 天然松林浴場 → 隠寂庵 → 白蓮庵 → ファルイン峰⇒セングル村(薬草村) → 麻谷寺

3コース: 松林の道 (松林の道11km、所要時間3時間30分、登山を含むフルコース)

麻谷寺 → 天然松林浴場 → 隠寂庵 → 白蓮庵⇒セングル村 → 息子岩(松葉の絨毯道) → ナバル峰(黄土の森道) → 伝統仏教文化院 → 火葬場(死の体験) → 將軍泉⇒洞窟岩 → 君王台 → 麻谷寺

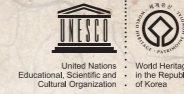
公州市多国語観光案内サービス
ストアで“**공주랑(GONGJURANG)**”を検索してみてください!

App Store

Google Play



(32520)忠清南道 公州市 沙谷面 麻谷寺路 966
代表電話番号: +82-41-841-6220~3
ファックス: +82-41-841-6227



弾む公州
活気あふれる未来

麻谷寺

百済息吹を見つける
世界文化遺産を抱く都市 公州





麻谷寺の由来

麻谷寺の立地

大韓仏教曹溪宗 25教区の中で第6教区本寺である由緒ある麻谷寺は、100余りの砂岩を管轄する忠清南道仏教の大本山の一つであり、特に桜、山菜萸、木蓮などの花を咲かせる春が最も美しいといわれ、春は麻谷寺、秋は甲寺という意味で‘春麻谷秋甲寺’という言葉が人々に囃される千年古刹である。

麻谷寺の由来

麻谷寺というお寺の名前については、大きく3つの由来がある。1つは、青陽の長谷寺・礼山の安谷寺と共に‘三谷寺’と呼んでいたが、この中で麻谷寺は‘三骨’だとし麻谷寺と呼んだという。2つ目は、新羅の補綴和尚が説法をしていた当時集まった人たちがまるで麻畑の麻の茎が谷を作っているようだとし麻谷寺になったという。最後に、九山の九つの教派の1つである聖住山門の開創者である新羅の無縁禅師(800~888)が中国の南宗禅の麻谷普澈先師の法を引き続き麻谷寺といわれたという説がある。

麻谷寺の創建と修復/再建

麻谷寺「事蹟立案」には、新羅の慈蔵律師が貞観17年(643)に唐に行った後善徳嬢王の時に創建したと記録されている。慈蔵律師が唐から帰ってきた後7代伽藍を創建したのだが、麻谷寺がその3つ目だという。「事蹟立案」には、‘最初の創建が慈蔵である、再造は普照であり、三建は梵日である、四修は道先、五成は覺淳である’とした。このことから麻谷寺は、九山禅門の中の迦智山門と閻嶺山門と一緒に関連した禅宗寺刹ではないかと推定できる。近世には、満空禅師が麻谷寺の住職としており、31本山住職会議に参加し朝鮮総督南次郎の仏教政策を叱ったという有名な逸話が伝えられている。2018年 6月 30日に‘山寺, 韓国の山地僧院’が第42次世界遺産委員会で世界遺産に登録された。



MAGOKSA

大韓仏教曹溪宗第6教区本寺
2018年6月には‘山寺, 韓国仏教の名山寺院’という名称で第42回世界遺産大会で世界遺産として認められた

五層石塔 (宝物 第799号)



麻谷寺の五層石塔が作られた時期は中国の元の干渉期だった13世紀末から14世紀初めだと推測される。塔の全体的な形状は平面の幅が狭い反面塔身の高さが高く、細長い形であり、典型的な高麗時代の石塔であるといえる。塔の高さは、8.76mで相輪に青銅材の風磨銅である金銅宝塔があるが、これは元の末期ラマ仏教の影響を受けた様式であるという。このような様式の塔は、韓国・インド・中国など世界に3つしか存在しない貴重な塔でもある。現在、有形文化財に指定されており国宝と昇格するように推進している。

靈山殿 (宝物 第800号)



靈山殿は、世宗大王が‘萬世不忘之’と激賞し風水地理家たちが天下の大穴だと感嘆する君王代の脈が流れているところである。世宗大王が麻谷寺に身を隠していた梅月堂の金時習(キムシスプ)に会いに来たが、金時習は扶余の無量寺に住まいを移した後で金時習に会えなかった世宗が寺を去る時に‘梅月堂が私を捨てて行ってしまったから駕籠に乗っては行けない’と言い、乗ってきた駕籠を置いて牛に乗って帰ったという話が伝えられている。世宗が乗ってきた駕籠は今でも麻谷寺博物館に保管されている。靈山殿は、麻谷寺で最も古い建物で右側には修禅舎、左側には禅院である梅月堂がある。入試や昇進の願いを持つ方たちの祈りが絶えない場所で、10月末頃には君王代祭が行われる。

大雄宝殿 (宝物 第801号)



大雄宝殿は、麻谷寺境内で一番北側に位置しており風水地理上麻谷寺の主脈が下りる道にある。元の建物は壬辰倭乱(1592)の際に焼けてしまいなくなった。現在の建物は、1651(孝宗2)年に覺淳大師と公州牧使の李奏淵(イジュヨン)が再び建てたものである。再建当時とは、金堂としてではなく経典を保管する大藏殿であり、いつ現在の用途に変わったのかは正確ではない。大雄寶殿は、正面に5つ側面に4つの間を持つ1階と側面に3つ正面に3つの間がある2階で構成された中層木造見物である。大雄寶殿の扁額は、新羅時代の書き手金生(キムセン)の書である。

大光宝殿 (宝物 第802号)



解脱門と天王門を過ぎ北の方に行くと5層石塔の後ろに麻谷寺の本尊を祀る大光寶殿がある。大光寶殿は、17世紀中盤に建立されたものと推定されており、「忠清右道公州判地西嶺泰華山麻谷寺大光寶殿重創記によると、1782年の大火災で焼失した後、霽峰の體奎(チェギュ)を中心に再建が始まり、1785年に完工したといわれている。大光寶殿は、3段の自然石の基壇の上に建てられた正面5間、側面3間の多包様式の入母屋式の建物である。大光寶殿の扁額は、豹菴という落款とみられ姜世兪(カンセファン 1713~1791)の書である。